「言葉の院外処方箋」

新渡戸稲造記念センター 長 樋野興夫

第82回

『「賢明なるオアシス」 ~ 『一日一言』の処方箋 ~』

筆者が理事長を務める恵泉女学園の事務局長から、2021年11月7日(日)『第33回恵泉女学園大学学園祭 2021年度恵泉祭』で、『「生涯就業力推進センター 私が考える生涯就業力論文コンテスト」があります。そこにご出席ください。』との連絡を頂いた。 『2021年7月末より本学の在学生に対して募集を開始した。私が考える「生涯就業力」論文第一回テーマ ~ 私のいままで、そしてこれからを見つめる生涯就業力 ~ について、各界をリードする有識者の方々に客員教授としてご参画いただく、本学の生涯就業力推進センター「アドヴァイザリー・ボードメンバー」兼 本学客員教授の皆様より、専門的な視点から論文の講評をいただきます。』と紹介されていた(画像1,2)。

100 年前に、一人の日本人が立ちあがった。『武士道』(1900 年)を記した新渡戸稲造(1862-1933)である。 新渡戸稲造は、国際連盟 事務次長 (1920~1926)も務める。 新渡戸稲造は 世界中の幸せを願い、世界中の叡智を結集させようと努力した。 そして 1922 年に国際連盟に "知的協力委員会" (後のユネスコ)を参集した。 この委員会には 哲学者のベルグソンや物理学者のアインシュタイン、キュリー夫人らが委員として参加、第 1 次世界大戦後に困窮が著しかった各国の生活水準の調査や知的財産に関する国際条約案を検討し、各国の利害調整にあたった。 思えば、今は亡き原田明夫 検事総長と、2000 年『新渡戸稲造 武士道 100 周年記念シンポ』、『新渡戸稲造生誕 140 年』(2002 年)、『新渡戸稲造没後 70 年』 (2003 年)、 さらに『新渡戸稲造 5000 円札さようならシンポ』(2004 年)を 国連大学で開催したのが 走馬灯のように駆け巡ってくる。「日本国の処方箋」は、実は「今ふたたび、新渡戸稲造!」に、具象的に内包されているのではなかろうか! 来年(2022年)は、『「知的協力委員会」設立 100周年 & 新渡戸稲造生誕 160 周年』である(画像 3: 2016 年 本郷の訪問看護ステーションの看護師によって作成された相関図)。

『非専門家が「世間に認められた専門家」になる現象化』の問題点の指摘、『「救済(人間愛)と科学」の懸け橋としての科学者の役割』の提言は、「科学的に分かることと、分からないこと」を明確にし「陣営の外」に出る科学者としての「良心・胆力」を示すものであり、「曖昧なところは曖昧」と説明し、「最初から最悪の状況」を想定し、それにうろたえることなく、冷静に問題解決に当たる「先憂後楽」の姿勢が有用であることは、過去の歴史が繰り返し説明している。 筆者は、新渡戸稲造の『一日一言』 (1915 年)の11 月 25 日付けの文章を改めて読み直した。「事の是非曲直、政治の長短、学理の真偽は、飽くまでも、しかも冷静に明らかに争うべし。一 水かけ論や、一 揚げ足取りは聞かぬもよけれ、いわぬに勝るなり。一」とある。 まさに、「賢明なるオアシス」である。



画像 1



画像 2



二宮 尊徳(にのみや たかのり)は、 江戸時代後期の経世家、農政家、思想家。



吉田松陰(よしだしょういん、文政13年8月4日(1830 年9月20日-安政6年10月27日 (1859年11月21日) 満29歳没。日本の武士(長州藩士)、思想家、教育 者の一般的に明治維新の精神的指導者・理論者・ 個幕論者として知られる。私塾「松下村塾」で、後の 明治維新で重要な働きをする多くの若者を育てた。 かくすればかくなるものと知りながら やむにやま



新島 襄(にいじまじょう、天保14年1月14日(1843年2月12日) - 明治23 年(1890年)1月23日)は日本の景物家、教育者、学位は理学士、同志 北美学校(後の同志社大学)を見止、明治六大教育家の1人に教えら れている。天保14年(1843年)、江戸の神田にあった上州安中藩江戸 屋敷で、安中藩士・新島民治の子としてまれる、1857年にアルリカ アーモスト大学に入学、日本人として、はじめて学士号を取得、また 名学中に、のちに相規原学校教師となるウェリアム・ZSス・クラークか ら科学の授業を受けていた。この縁でクラークは来日することとなった。





新島 八重(にいじま やえ)、弘化2年11月3日(1845年 12月1日) - 昭和7年(1932年)6月14日)は、江戸時代末 期(幕末)から昭和初期の日本の女性。新島襄の妻。

21世紀の 新渡戸稲造



札幌農学校 札幌農学校 2期生 2期生

米での教え子

2 期生 (かエ 新渡戸 福達(にとべいなぞう, 1862年9月1日(文久2年8月8日)・1933年(明和8年)10月15日)は、日本の教育者・思想家、 農業経済学・農学の研究も行っていた。国際建盟事務次長も務め、著書 Bushido: The Soul of papan(官武士道人)は、流離な 英文で書かれ、長年終み続けられている。東京女子大学初代学長、東京女子経済専門学校(東京文化短期大学・現・新渡 戸文化短期大学)初代校長。 「知知協力委員(1922年)は、当時、国際建盟の事務局次長であった新渡戸福達が、事務をし、12名の有議者メン バーからなり、議長は、ベルグソン(哲学者)であり、アインシュタイン、さらには、キューリー夫人も、メンバーである。



悩める学生の為に、カフェを開くの が、夢」であったが、夢果たせずに 胃癌で亡くなった。

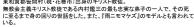


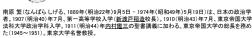
内村 総三(うちむら かんぞう 万征2年2日13日(1861年3日23日)。昭和5年(1930年)3日28日)け 付付 建二(フらじちかんでう、力能/平/月13日(1861年3月24日) ・昭和1年(1930年13月28日) 日本のキリスト教思想家・文学者 伝道者・聖書学者。福音主義信仰と時事社会批判に基づく日本独自のいかゆる無教会主義を唱えた。「代表的日本人」の著者でもある。万能2年(1861年)、高崎藩士・内村宜之とヤソの6男1女の長男として江戸小石川の武士長屋に生まれる。



斎藤 宗次郎(さいとうそうじろう、1877年2月20日・1968年1月2日)は、岩手県 東和賀郡笹間村(現・花巻市)出身のキリスト教徒。

ウィリアム・スミス・クラーク (William Smith Clark, 1826年7月31日 - 1886年3月9日) は、アメリカ合衆国の教育者。化学、植物学、動物学の教師。選学教育のリー学、札幌展学校、現北海道大学・別水報頭。同大学では専門の植物学だけでなく、自然科学・版を英語で教えた。この他、学生選に聖書を祀り、キリスト教についても講じた。のちに学生たちは「イエスを信じる者の誓勢」に次々と署名し、キリスト教に同いて人る水心をじた。日本ではシアーク博士として知られる。





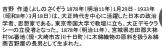
極野與夫(ひのおきお)順天堂大学教授プロフィール順天堂大学医学前病理腫瘍学教授学校法人恵泉女学園理事。1954年島根県生まれ、筋帯病理節、米国アインシュタイン医科大学肝臓研究センター、米国フォックスチェースがんセンター、 銀研実験病理部長を経て現職。日本家院腫瘍学会理事長、日本癌学会理事、日本肝臓学会の評議員ほか、第99回日本病理学教会会会長医征氏・肝臓および腎臓の研究で日本館学学術覧、自か実験物学会賞、島研究会学術賞、高松宮院保存基金学術覧、前、渡戸南原基金(第一回「新渡戸南原道」「アスペスト 中皮腫外来」で東京都医師会賞などを受賞、2008年1~3月順天堂大学医学部側属順天堂医院で「がん哲学外来」を開設、予約が設到する。その後、都内や横浜で同外来を開設し、各地で好評を得る。参は、「ア人のサムライ=勝海舟・新島夏・内村鑑三・新渡戸福造・南原築・矢内原忠雄・吉田富三/と天国でカフェを開催すること。



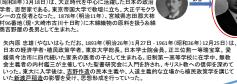
吉田 富三(よしだとみぞう、1903年(明治36年)2月10日 - 1973年(昭和48年)4月27日)は、日本の典理学者、揺島県石川郡送川村(現・浅川町)生まれ。 ラナの酸水塩である吉田内陸と酸水肝癌の発見で実験腫瘍学に新たな扉を開いた。 財団法人島野党会艦研労所長、日本学士院会員、日本学術会議会員、副会長(第6 、国語審議会委員(第1-6期)などを務めた。



Alfred G Knudso (1922年8月9日-2016年7月10日)はアメリカの医師、がん遺伝学に特化した遺伝学者。



坂本竜馬 西郷隆盛 武士道サムライ精神





温度の報告を大い、金の砂板で17 いた。
山橋 暦三郎 (やまぎわかつさぶろう、1863年月10日(文久3年2月 23日) - 1930年(昭和5年3月2日)は、日本の原理学者、人工総研 次の・人イナーアレイでいた。入金沙に同様の原理である。人工総研 を発子者(のか、東京市大医学等制)に入型、全乗時は首席という 成様を指す。1831年に東京市大医学等制を授せる。1895年12 次は長様す、1831年に東京市大医学等制を授せる。1895年から ペソに留学し、帰国後の1895年に東京市大医学等制を提せる。1895年から 中には世界では比めて化学制度による人工能の発生に成功、1915 年には世界では比めて化学制度による人工能の発生に成功、1915 年には世界では比めて化学制度による人工能の発生に成功。1919年に 年には世界では比めて化学制度による人工能の発生に成功。1919年に たべかから北地下で美が高を基準。1929年には常大を定義国、1928年に ドイツからノルドホフ・ユング賞を受賞。1930年、肺炎で逝去する。



菅野 晴夫(すがのはるお、1925- 昭和後期・平成時代の腫瘍学者。 大正14年9月13日生まれ、癌研究会癌研究所病理部長をへて、昭和48年所長。のち同癌化学療法セン・ 白血病細胞の再分化の研究などで知られる。平成15年文化功労者。18年癌研究会顧問。山形県出身。